

アドビシステムズ株式会社が Adobe Graphics Server 2.0 の日本市場への出荷を発表

様々な媒体に対するパブリッシングのワークフローにおける画像編集作業の自動化を実現

【2003年4月22日】

アドビシステムズ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：石井 幹）は本日、グラフィック／イメージングサーバソフトウェアの最新版、Adobe® Graphics Server 2.0 を日本市場向けに出荷することを発表しました。Adobe Graphics Server 2.0 は、印刷および Web 向けの画像編集を自動化し、画像編集作業に要する時間やコストを大幅に削減します。Adobe Graphics Server によって、デザイナーやコンテンツ制作者は、画像の形式変換やサイズ変更といった単純作業を自動化できるため、より魅力的な画像の制作やブランドの強化といった本来の創作作業に集中できるようになります。

マーケティングや営業活動で成功を収めるには、効果的なビジュアル コミュニケーションが欠かせません。製品画像をはじめとする視覚的要素は、雑誌広告やポスター・カタログから PC や携帯端末を通して見る Web サイトに至るまで、あらゆる媒体を通じて一貫性を維持する必要があります。Adobe Graphics Server によって、企業が情報を掲載する様々な媒体で使用される高品質な画像の作成、更新および再利用を簡単に行うことができるため、市場の動きにすばやく対応でき、より効果的な製品特性の確立や販売およびマーケティング計画が実現できます。

Adobe Graphics Server の活用分野は画像編集業務の自動化にとどまりません。Adobe Graphics Server では、Adobe Photoshop®、Adobe Illustrator® ならびに Adobe InDesign® で作成したレイアウトをテンプレートとして活用することができます。例えば Photoshop のネイティブ PSD ファイル設定を認識し、レイヤー構造も保持しているため、テキストレイヤーに対する変更が可能のほか、カラーモードの変換やファイル保存時の最適化が可能です。Illustrator のレイアウトを使用した場合は、実データに基づいてダイナミックに生成されるグラフやチャートが作成できます。企業のデザイン ガイドラインに沿ったテンプレートを保存しておき、販売店などのパートナーに提供しておけば、従来の画一的かつ一方的な商品カタログや POP 等の販促ツールの提供から、パートナー自身によるオリジナルかつ企業アイデンティティに即した販促ツールの制作を支援することが可能となります。

Adobe Graphics Server は、Adobe Photoshop、Adobe Illustrator、Adobe GoLive® および Adobe InDesign で作成した高品質な画像に対して、カラーモード変換や解像度編集など数多くの標準的な画像操作を行うことができます。出力ファイル形式としては、Adobe PDF (Portable Document Format)、EPS、PSD、TIFF、GIF、JPEG、SVG、WBMP などに最適化することができます。また、XMP メタデータの読み書きをサポートしているため、製作者の名前など管理情報を画像と関連づけることができます。

Adobe Graphics Server はオープン API をサポートしており、Oracle® や SQL などのデータベースシステムで構築された既存の印刷および Web 制作のワークフロー、コンテンツ

管理システム（CMS）やグループウェア、Web Application Server などと緊密に統合することも可能です。これにより、顧客はすでに使用しているアプリケーションから Adobe Graphics Server の画像編集の機能を利用することができます。

日本オラクル株式会社 マーケティング本部長 清水 照久氏は、「日本オラクルは、アドビシステムズによる Adobe Graphics Server 2.0 の提供開始を歓迎致します。Adobe Graphics Server 2.0 の印刷および Web 画像編集ソリューションと、Oracle9i Database およびデータベースのファイルシステムである Oracle Internet File System(9iFS) を組み合わせることにより、ユーザはグラフィックスの自動編集や管理を安全かつ飛躍的に効率よく行うことが可能になります」と述べています。

株式会社オレガディール 代表取締役社長 三好 修氏は、「Adobe Graphics Server 2.0 は、全てのコラボレーション業務を Web 化するというオレガディールの戦略にとって、非常に重要なソリューションです。Adobe Graphics Server の強力な画像編集機能と、優れたコンテンツ管理機能を持つ当社の Alternax® を組み合わせることで、クリエイティブ分野におけるネットワーク・コラボレーション環境が実現されます」と述べています。

Adobe Graphics Server は Windows および Solaris の 2 つのプラットフォームで利用でき、Java、Perl、VisualBasic、COM、.NET などの API をサポートしているため、プログラムは既に習得しているツールを使用して開発を行えます。また、Web Service (SOAP インタフェイス) にも対応しています。

サンマイクロシステムズ株式会社 フィールド・マーケティング本部本部長代行 長尾 唱氏は、「Adobe Graphics Server 2.0」の国内出荷を歓迎いたします。安定性に定評のある Solaris オペレーティングシステムと組み合わせることで、Web ベースの強力な画像編集ソリューションが可能となります。また、インターネットを基盤としたシステムのアプリケーション環境で世界標準となっている Java 2 Enterprise Edition (J2EE) に対応しており、ブロードバンド利用をさらに加速するデジタル・コンテンツの充実に貢献するものと期待しております。」と述べています。

Adobe Graphics Server は、アドビシステムズ社のソリューションパートナーを通じて販売されます。製品の出荷は 2003 年第 2 四半期中を予定しています。

また、Adobe Graphics Server は 5 月 20 日より開催されますビジネスショー TOKYO2003 にて出展を予定しております。

Adobe Graphics Server 2.0 必要システム構成

Windows® 2000 Server (SP2、SP3)

- 500MHz 以上のインテル® Pentium® III プロセッサ
- 1CPU あたり 512MB の RAM (1GB 以上を推奨)
- スワップディスク容量：RAM サイズ + 256MB
- 350MB 以上の空き容量のあるハードディスク
- CD-ROM ドライブ

Sun™ Solaris™ 8

- Sun UltraSPARC III 440MHz プロセッサ
(750MHz UltraSPARC III のプロセッサを 2 個搭載した Enterprise 280R 以上のシステムを推奨)
- 1CPU あたり 512MB の RAM (1GB 以上を推奨)
- スワップディスク容量：RAM サイズ + 256MB
- 350MB 以上の空き容量のあるハードディスク
- CD-ROM ドライブ

アドビ システムズ社について

アドビ システムズ社は、1982 年に創立された、米国カリフォルニア州サンノゼに本社をおくソフトウェア会社です。これまで、法人ユーザおよびクリエイター向けに様々なソフトウェアを提供し、ネットワークパブリッシングを推進してきました。それらの製品は、豊かな視覚効果にあふれ、魅力的で、信頼度の高いコンテンツの制作、管理、配信を可能にします。アドビ システムズ 株式会社はその日本法人です。詳細な情報は、Web サイト <http://www.adobe.co.jp/> でご覧いただけます。